

## 第5回とやま未来創生戦略施策等評価会議の会議結果について

とやま未来創生戦略施策等評価会議  
会 長 遠 藤 俊 郎

昨年11月12日の第5回とやま未来創生施策等評価会議（以下「評価会議」）の結果について以下の通りご報告いたします。

地方創生は息の長い取り組みであり、施策評価を行い、今後の施策に反映させるという、PDCAサイクルをしっかりとまわしていくことが重要です。

評価会議では、「とやま未来創生戦略」に掲げた各施策について、計画期間の最終年度である令和元年度における進捗状況に関しまして、重要業績評価指標などにに基づき、評価・検証を行いました。

当日は、出席委員から、それぞれのご経験・ご見識に基づくご意見をいただきました。いただいた意見のうちの主なものは、本日の会議資料に記載しておりますが、例えば、

- ・人材の確保が一番重要であり、引き続き優秀な人材を確保できる施策が必要である。
- ・特定の産業をどうバックアップするか考えていく必要がある。
- ・企業の働き方改革やIT化、移動をしなくても仕事ができる環境づくりが必要である。
- ・今後の施策に若い起業家の誘致、支援を行う強い施策を取り入れるべき。

といった貴重なご意見をいただきました。

私からは、会議の総括として、各委員からいただいたご意見を今後の県の施策の推進に活かしていただくことを県にお願いした上で、県から提出された最終評価（案）について委員の皆様からご了承いただいたことを、ご報告いたします。

県では、今年度から、「第2期とやま未来創生戦略」に基づいて各施策を推進されているところですが、県民目線やスピード感にも留意されながら、引き続き、本県の地方創生の推進に取り組まれますようお願いいたします。

以 上

## 第5回とやま未来創生戦略施策等評価会議における主な意見

(令和2年11月12日 開催)

### 【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 管理的職業従事者に占める女性の割合を増やすなど取組みをしっかりと進めていただきたい。

### 【基本目標2】産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- 全国的な企業の支店誘致なども県のイメージアップにつながるのではないかと。また、SNSなどを活用した、女性に響く取組みを進めるとよいのではないかと。
- コロナにより、観光の形態は個人旅行に変わっており、受け入れ側は大きく舵を変えていかなければいけない。
- ウィズコロナ、ポストコロナなど、新しい生活様式が進むなかで、観光客を「不特定多数」で誘客するのではなく、「特定多数」で誘客するなど、観光業態の見直しが必要。
- 地方創生推進交付金事業「北陸次世代産業創出イノベーション推進事業」の取組みは非常に有効であり、北陸3県で引き続き取り組んでいくべき。
- 薬業界が発展していくには人材の確保が一番重要であり、引き続き優秀な人材を確保できる施策を行っていくべき。
- 薬やアルミのコンソーシアムの取組のように特定の産業をどうパックアップしていくか考えていく必要がある。

### 【基本目標3】女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 企業の働き方改革やIT化、移動をしなくても仕事ができる環境づくりが必要。
- 自然災害やコロナ対策など、企業のBCPの取組への支援を進めていただきたい。
- デジタル化は、若者が起業するためのよいチャンスであるので、今後の施策に若い起業家の誘致、支援を行う強い施策を取り入れていただきたい。

### 【基本目標4】活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- バスロケーションシステムをより簡易で利便性の高いものに充実させていくことが必要。
- 公共交通機関へのICカードの導入についてはコストが大きく、地域の事業者だけでは整備できないので導入に向けた手法の検討などが必要ではないかと。
- 行政が事業を行って満足するのではなく、やる気がある人を育成する方向に舵を切っていくべき。